

「池田分かち合いの会・ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子

編集：京井幹男

発行日 2022年7月

No. 5

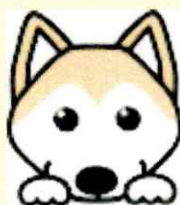
豊中夢基金 杉山春講演会「自死は向き合える」主催：池田分かち合いの会・ひかり

★日時：2022年6月18日（土）午後2時 ★場所：豊中商工会議所 ★参加費：無料
自死、虐待を扱っておられる。NHK朝の番組にも出演。

著書 『自死は、向き合える』遺族を支える，社会で防ぐ（岩波ブックレット）
『ネグレクト—育児放棄 真奈ちゃんは何で死んだか』（小学館ノンフィクション賞受賞）
『児童虐待から考える』社会は家族に何を強いてきたか（朝日新聞出版）

新聞づくりの趣旨

- 参加者が発見、気づいた体験を書くことにより認識が深められる。
- 当事者同士の絆が深まる。
- 差別・偏見への理解をたかめる。
→生の声を伝えることにより社会認識を深めていく。



池田分かち合いの会・ひかり in 豊中（定例会・毎月第二土曜日）
池田分かち合いの会・ひかり in 池田（定例会・毎月第三土曜日）

いずれも午後2時から・事前申込み不要・参加費無料

問い合わせ先：植村ヨシ子（代表） 電話080-3858-2954

みんなで話そう

生命（いのち）

「自責の念」にさいなまれ後悔ばかりで答えはでない。

ある内科医が言った。「ドアの向こうに亡きひとがいる」。ドアの向こうは浄土。こちらには娑婆。ドアが彼岸。生死（しょうじ）の問題は「表裏一体」。「生まれたから死がある。死は特別なことではない」。

ある参加者は、その言葉に気持ち「らく」になったと語られた。心願に気づき発見をしたと感謝されていた。

いのちとは、多くの人に支えられ生かされ育まれていく。

「生きたかった」のに「生きられなかった」。それしか選択肢がなかった。

絶対的な者、不動の者に「まかせろ」ことが「生かされている慶び」につながる。

いのちは、「つながり」であり「つながり」が「生かされている」。

「生きたかった」のに「生きられなかった」。それしか選択肢がなかった。

いのちは、「つながり」であり「つながり」が「生かされている」。

「生きたかった」のに「生きられなかった」。それしか選択肢がなかった。

よしこ

